

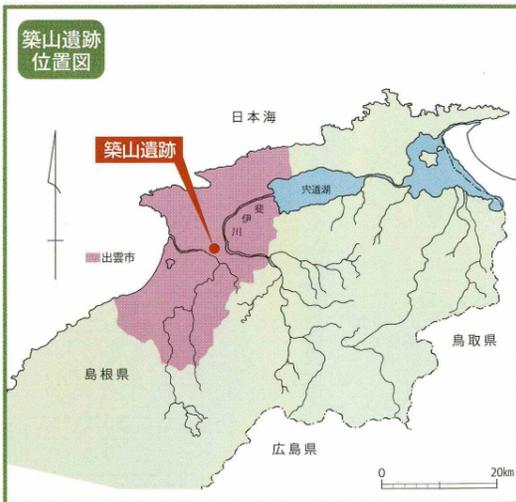
年表

年号	築山遺跡のできごと	全国のできごと
縄文時代 前30	(後期) 今から約3600年前 人々が築山遺跡周辺で 生活し始める	
弥生時代 40	人面付土器	239年 卑弥呼が 魏に使者を送る
古墳時代 645	6世紀後半～7世紀初め 上塩冶築山古墳をはじめとす る「築山古墳群」が造られる。	593年 厩戸王(聖徳太子)が 摂政として活躍する
飛鳥時代 710		645年 大化の改新
奈良時代 794	火葬墓が営まれる	710年 都を平城京にうつす
平安時代 1192	墨書土器	794年 都を平安京にうつす
鎌倉時代 1338	神東(塩冶)八幡宮 建てられる	1192年 源頼朝、鎌倉幕府を開く 1221年 承久の乱で、 後鳥羽上皇が 隠岐に流される
室町時代 1467	佐々木(塩冶) 氏の支配 方形の 区画溝できる 「牛頭天王」木簡	1338年 足利尊氏、 室町幕府を開く
戦国時代 1603		1467年 応仁の乱で 全国は戦乱の世へ
江戸時代		1603年 徳川家康、 江戸幕府を開く



■縄文時代の土器も多く
見つかっています。
左は人面付土器。
(写真は実物大)

つきやまいせき
築山遺跡では、古墳時代よりも前の縄文時
代や弥生時代の土器がたくさん見つかってい
ます。その時代の人々の住まいは見つかって
いませんが、この近くに住んでいた可能性は
あります。



2009年(平成21)3月 発行

編集・発行 出雲市文化財課
TEL:0853-21-6893
印刷 株式会社報光社

2012.3改訂

築山遺跡

つきやまいせき



はっくつ つきやまこふんぐん 発掘された築山古墳群

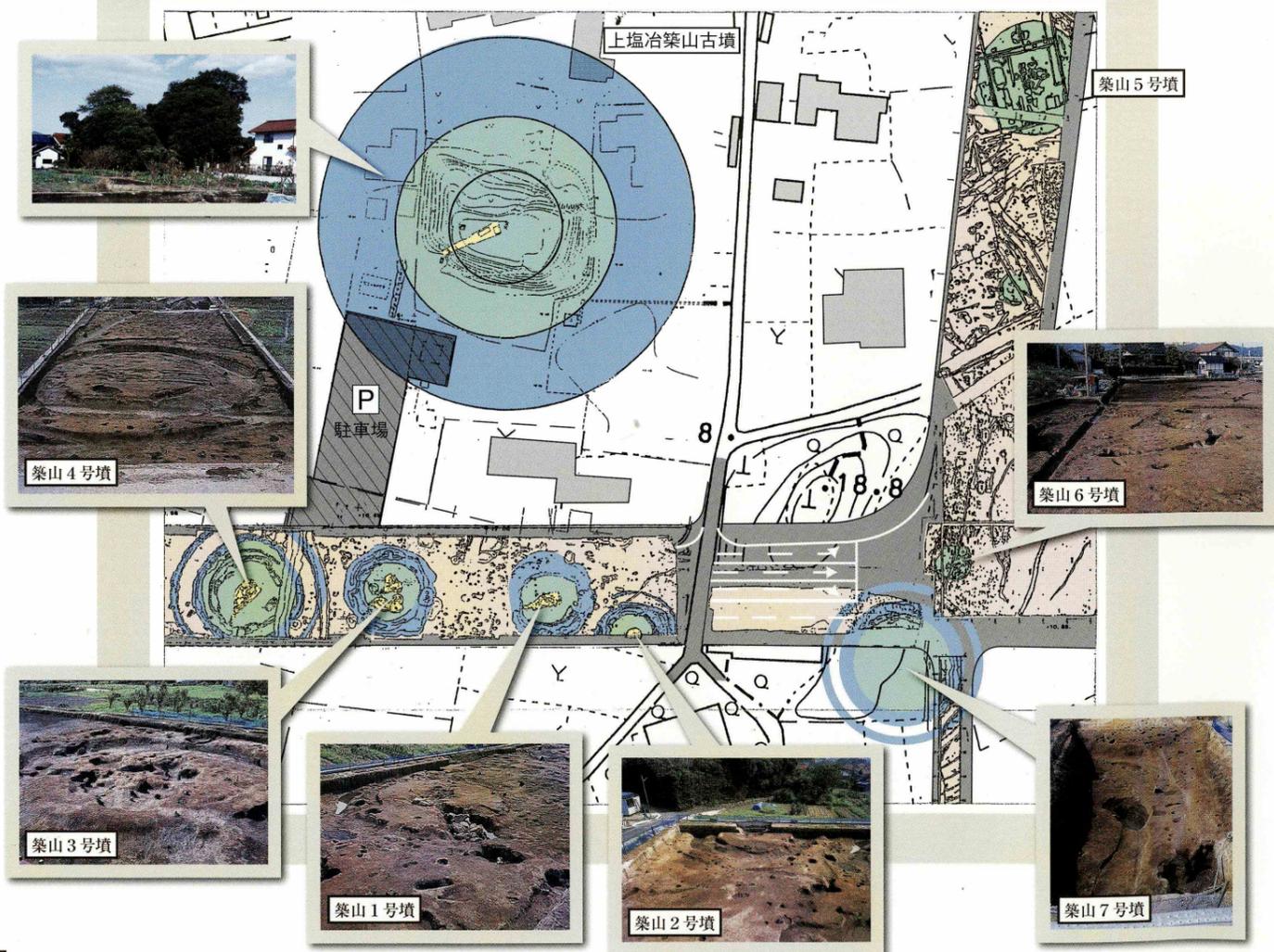
2003～2008（平成15～20）年度にかけて、新しい道路をつくるために、築山遺跡の調査をしました。その結果、上塩冶築山古墳のまわりに同じ時代の円形の古墳（円墳）を7つ発見しました。この7つの古墳と上塩冶築山古墳とを合わせて、「築山古墳群」と呼びます。



7つの古墳は壊されていましたが、古墳を囲んだ溝（周溝）や死者を入れた部屋（石室）の跡が残っていました。上塩冶築山古墳は出雲平野にある古墳時代後期（今から1400年前）の大きな古墳ですが、そのような古墳は一つだけ孤立してつくられたと、これまでは考えられていました。ところが、「築山古墳群」の発見で、上塩冶築山古墳のまわりには多くの古墳がならんでいたことが分かりました。

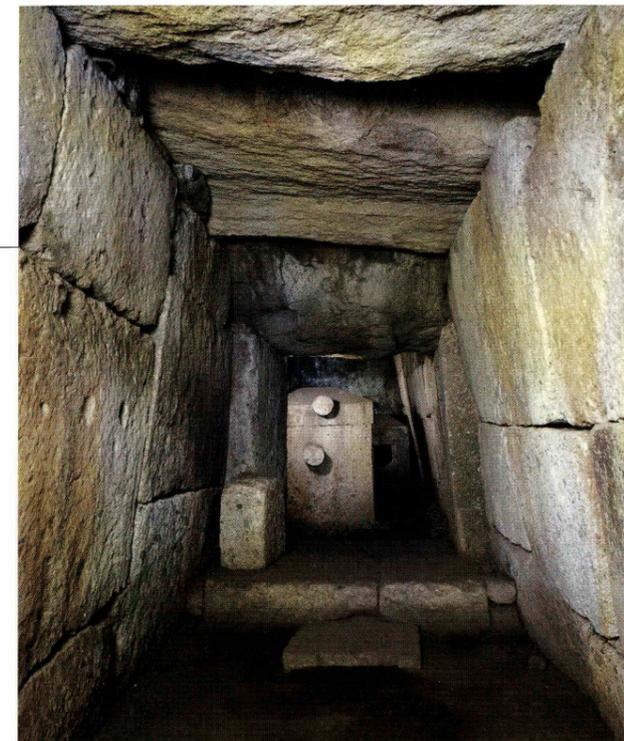
位置図A

- 墳丘
- 周溝
- 石室
- 発掘調査箇所



かみえんやつきやまこふん 上塩冶築山古墳

上塩冶築山古墳のかたちは、現在は長方形ですが、もともとは直径46mの円形の古墳で、高さは6mもありました。また、古墳のまわりには幅16mの溝が掘られていました。死者を入れた棺をおさめた部屋（石室）は、大きな石を丁寧に加工してつくられています。その石室の長さは14mで、島根県内で最も大きいものの一つです。棺も長さ2m以上の巨大な石をくりぬいて、つくられています。



死者へのお供え物（副葬品）は、島根県内でも最も豪華なものの一つです。写真の冠、アクセサリー、大刀のほかにも、馬に乗るための道具（馬具）などが見つかっています。古墳の大きさや副葬品の素晴らしさから、上塩冶築山古墳には出雲平野の最高首長が葬られていたと考えられています。



つきやまこふんぐん 築山古墳群から見つかった副葬品

築山遺跡の調査の結果、7つの古墳は壊されていましたが、古墳を囲んだ溝（周溝）や死者を入れた部屋（石室）の跡が見つかりました。そして、石室や周溝からお供え物（副葬品）がたくさん見つかりました。ここでは、古墳とその副葬品について紹介します。



■ 2号墳

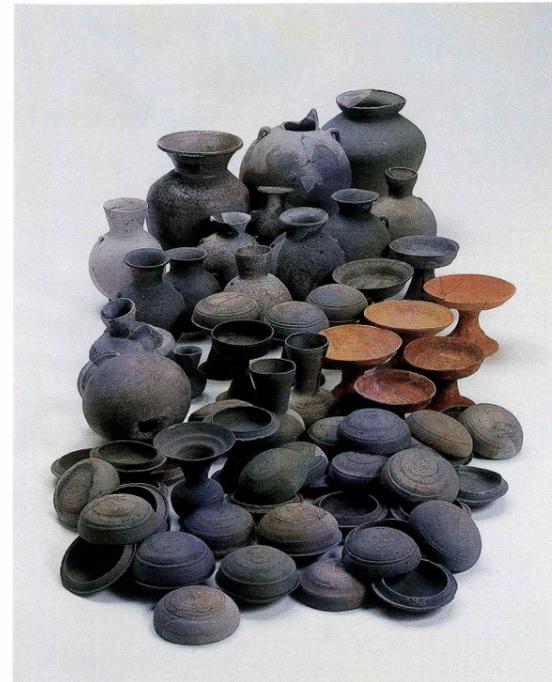
古墳を囲む溝（周溝）からたくさんの土器が見つかりました。



■ 4号墳

■ 7つの円墳の大きさと副葬品

古墳の名前	古墳（墳丘）の大きさ	囲む溝（周溝）の大きさ	外側の周溝の大きさ	副葬品				
				アクセサリー	武器	馬具	工具	土器
1号墳	直径13m	直径18m	—	銀環	大刀の金銅製のつば 鉄製の矢じり	鍔のつり金具 飾り金具	—	須恵器 土師器
2号墳	直径12m	直径15m	—	金環 金銅製空玉 玉（メノウ・コハク・ガラス）	大刀の柄に巻いた銀線 鉄製の矢じり	飾り金具	—	須恵器
3号墳	直径16m	直径19m	—	銀環	大刀の柄に付けた飾り 鉄製の矢じり	—	鈍 鉄製の刀子	須恵器
4号墳	直径21m	直径24m	直径32m	勾玉（水晶） 切子玉（水晶） 玉（ガラス）	鉄製の矢じり	飾り金具	鉄製の刀子 鉄製の斧	須恵器 土師器
5号墳	直径23m	—	—	—	—	—	—	須恵器 土師器
6号墳	直径7m	直径9m	—	—	—	—	—	—
7号墳	直径23m	直径27m	直径38m	—	—	—	—	—



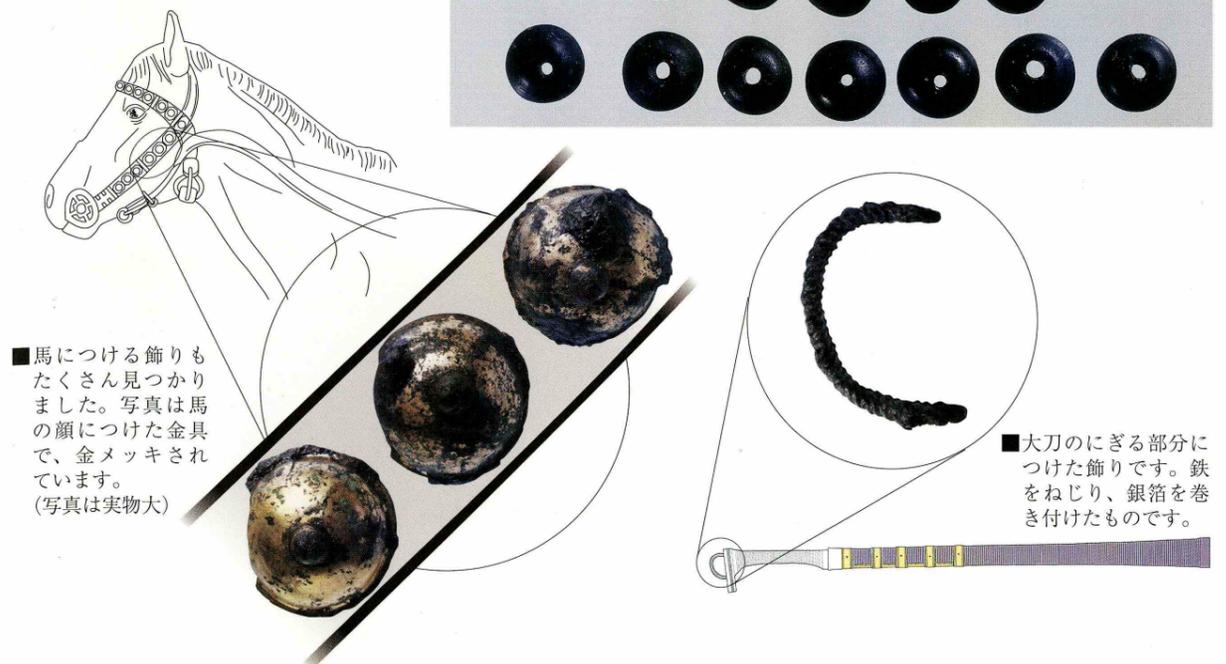
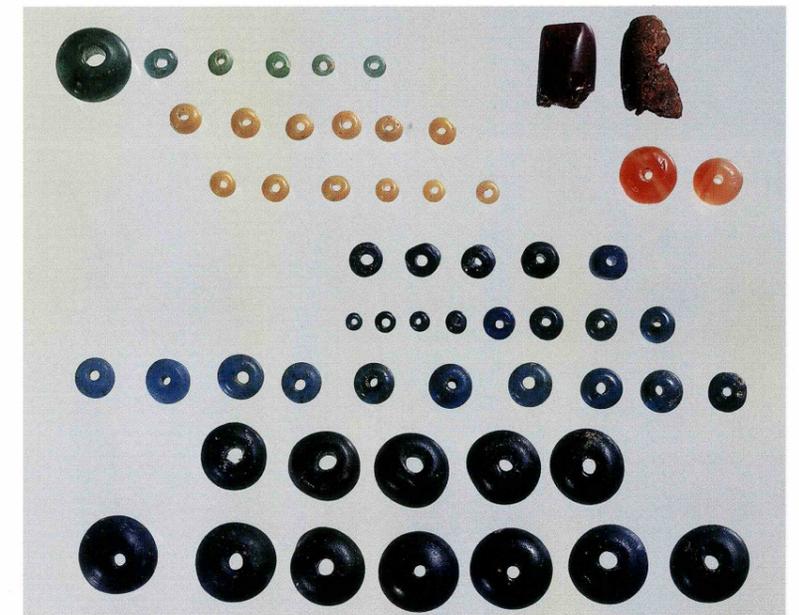
■ 古墳の周溝から見つかった土器を復元すると、いろいろな種類のものになりました。



■ 2号墳（下）と4号墳（上）で見つかった玉です。2号墳のオレンジ色の玉は「メノウ」、えんじ色は「コハク」、その他の青や黄・黄緑色の玉はガラスで、4号墳の透明な勾玉や切子玉は水晶でできています。（写真は実物大）



■ 左は金箔貼りのイヤリング（金環）、右は中身が空洞の玉（空玉）です。



■ 馬につける飾りもたくさん見つかりました。写真は馬の顔につけた金具で、金メッキされています。（写真は実物大）

■ 大刀のにぎる部分につけた飾りです。鉄をねじり、銀箔を巻き付けたものです。

こ だい 古代

(奈良～平安時代)

つぎやまいせき 築山遺跡の調査の結果、古代(奈良～平安時代)の人々のくらしの跡もたくさん見つかっています。その一部を紹介します。



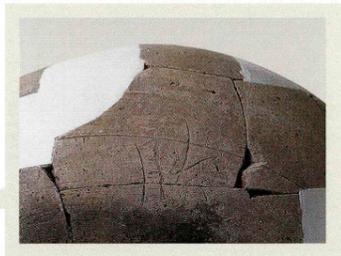
■土葬された人のお墓。お供えのための土器が残っていました。



■火葬された人のお墓。骨が土器の中に残っていました。(左)

築山遺跡では、奈良時代の初め(今から1300年前)のお墓がいくつか見つかっています。そのなかには仏教の影響で、火葬により葬られた人のお墓も見つかりました。このころも、人々は周辺を墓地として考えていたようです。

■お坊さんが使う土器に「勝」と刻まれていました。



外側

内側

■平安時代初め頃の京都産の高級な焼き物です。



■底に墨で文字を書いた平安時代初め頃の土器です。(上は赤外線写真) なんと読むのでしょうか。



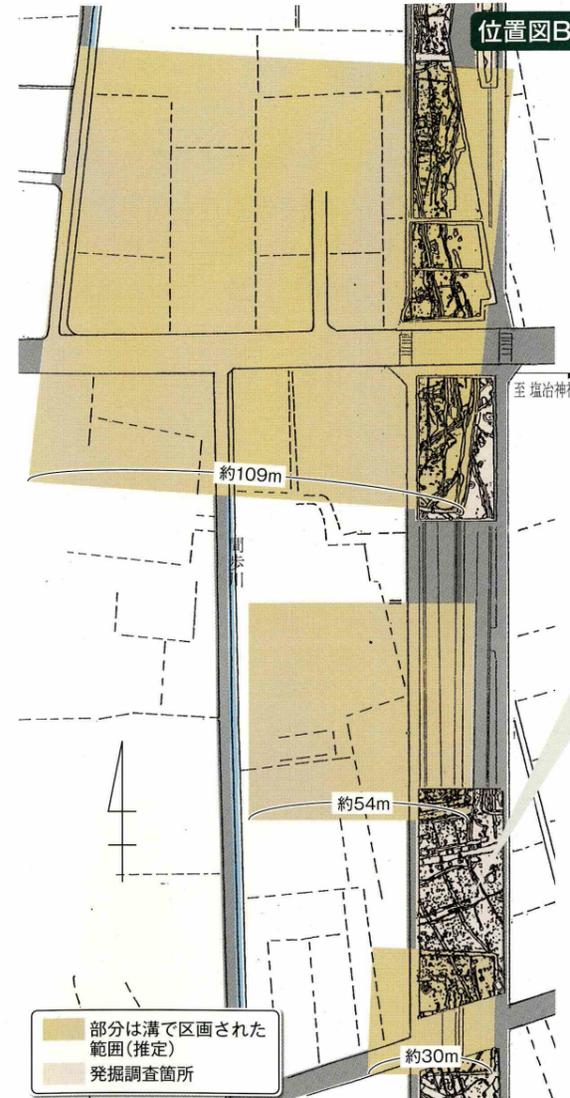
■奈良時代の土器もたくさん見つかりました。右端の壺には漆が残っています。

奈良時代半ばから平安時代にかけては、文字を知る人たちが周辺にいたようです。漆が残った壺が見つかることなどから、生産活動が行われていたこともわかりました。また、当時、持てる人が限られていた高級な焼き物も見つかっています。このことから、お寺や有力者の屋敷といった築山遺跡周辺を中心とする施設があったと考えられます。

ちゅうせい 中世

(鎌倉～戦国時代)

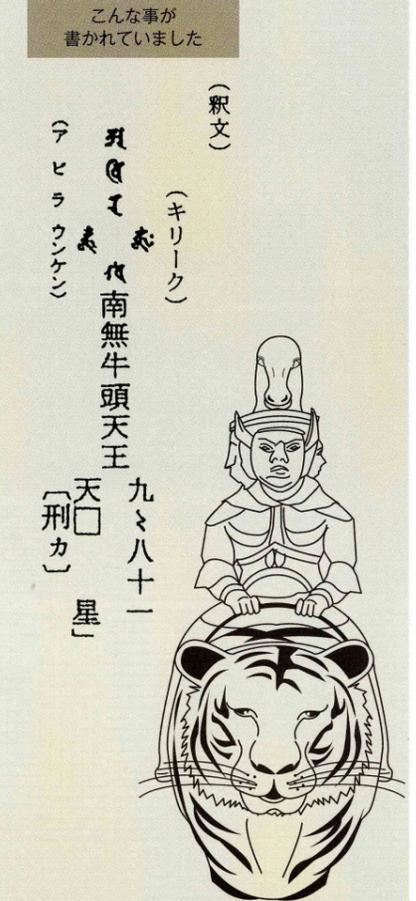
現在の塩冶神社参道周辺の調査で、中世(鎌倉～室町時代)の建物跡や溝の跡が見つかりました。特に、土地を四角形に区画する溝が多く、それらは計画して掘られたと考えられます。遺跡の西側には、江戸時代まで塩冶八幡宮(現在の塩冶神社)があったと伝えられることから、遺跡は八幡宮に関わるものとみられます。



■部分は溝で区画された範囲(推定)
■発掘調査箇所



■室町時代に中国から輸入された酒会壺の破片が出土しました。酒会壺は一部の有力者しかもたないものです。



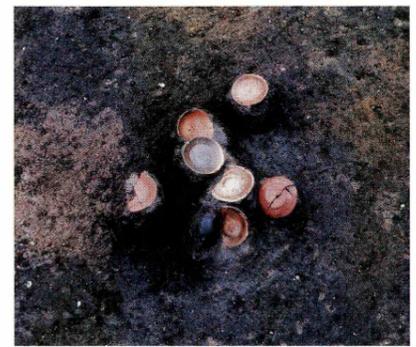
こんな事が書かれていました

(釈文)
(キリク)
九々八十一
天(刑カ)星
南無牛頭天王
アヒラウケンシ



※イラストはイメージです。

■牛頭天王(右上)という疫病から守る神様に祈りをささげた木札(全長約77cm)です。南北朝時代のものです。



■室町時代の土器も見つかりました。